

(単元) 楷書の学習

(本時のねらい)

本校の生徒は、書道塾に通った経験はない生徒が多く、また不登校傾向の生徒も多く在籍している。そのことから授業を通して、「書道」の面白さや、文字を書くことの楽しさに触れ、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てたいと思っている。楷書は、今日的には最も基本的な書体であり、用筆法、運筆法、結構法において中心をなすものである。本時は、基本的な筆使いを身につけ、書道について理解を深めることをねらいとした。

(ICT 活用方法)

書道を学習する上で、正しい姿勢や筆の持ち方をマスターすることは欠かすことができない。しかし自分の執筆の様子は、自分で見るができないため、正しい方法を指導することに苦戦していた。そこで生徒の筆の持ち方を説明するために、映像を用いて生徒に提示する。従来は指導者が、口頭で指摘していたが、本時のねらいを達成するため、予め撮影していた様子を生徒に見せ、自己の執筆方法について気づかせることとした。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 3分	・ 本時の目標について説明を聞く。	・ 目標を板書する。	
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の執筆の様子を映像で確認する。 ・ 自己の執筆法について気づいたことを発表する。 ・ 正しい執筆法を確認する。 ・ 作品を書く。 	・ 良いところをさらに伸ばせるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒端末を用い、前時に録画した映像を見る。正しい姿勢 ・ 筆の持ち方を確認させる。 ・ 発表する生徒の映像を繰り返し提示する。 ・ 机間巡視しながら個別に指導する。
まとめ 5分	・ 本時の学習内容を確認する。		・ 作品を提出する。

(授業の様子)



(生徒執筆の様子①)



(生徒執筆の様子②)



(生徒執筆の様子③)

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

生徒の反応は「百聞は一見に如かず」だと発するほど，良いものだった。また自分の姿がよくわかったと概ね好評であった。静止画と動画の両方を録画したり，長時間録画したり工夫の余地は多いと感じた。書道教室では，ICT 活用の環境整備が整っていないため，今後設備の充実に期待している。